

平成 23 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000054		
法人名	株式会社メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割111番地3号		
自己評価作成日	平成24年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393000054&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のラジオ体操・下肢運動による歩行維持に努めています。また、食後の後片付けを当番制とし全員が参加できる仕組みを取り入れています。自治会の会員として地域行事への参加や保育所との交流を通じて地域へ貢献できることに努めています。地域の特性を生かして季節の食材を自ら収穫し調理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は、(株)メイトの2つ目の事業所として設置され、ホームとよまね(1号館)とあわせて、地域住民から福祉の拠点としての認識が高まっており、その役割と期待が日に日に高まってきている。もともと、思いやりと助け合いの心で結ばれた地域柄に加えて、特に、地域内外の被災者や要介護者等の受け入れなど、東日本大震災を契機にした多くの臨機応変・柔軟な対応には、地域のみならず行政等からも感謝と評価を受け、今後の事業所の活躍が大いに期待される。利用者は、このような前向き積極的な事業所・職員と「安心と尊厳のある自立生活を支援する」という理念と考えのもと、地域の幼稚園や保育園の子どもたち、大根収穫等で隣近所や老人クラブなどと暇なく交流して、生き生きと生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月理念を全員で復唱し、言葉だけでなく理念について考える研修を取り入れ実践に努めています	理念(安心と尊厳ある自立生活を支援する)について、職員それぞれの意識や思いを出し合うとともに、三大介助(食事・排泄・入浴)を中心として、理念を具体的ケアに反映させるため、全職員で話し合い、目線を合わせながら、ケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員として事業に参加するとともに、おでんせ市(産直)へ毎週買い物に出かけ地域の方々と交流を深めています。	近隣の幼稚園や保育園、地域老人クラブとの交流会のほか、地域の「お茶のみサロン」「そばうち体験」「草取り」などにも、利用者・職員一緒に参画して、地域の一員として付き合いを重ねている。ご近所からの野菜等のお裾分けなどは頻繁にある。	経営母体の㈱メイトで不用になった台紙でメモ用紙をつくり、地域の人達に使ってもらうなど単なる交流から地域に役立つ活動を始めており、一層地域との繋がりが増すことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム利用者と実際に接することで、理解や支援方法を見ていただけるよう努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見の中で、すぐに来ることから取り組みサービス向上に努めています	利用者手づくりの「広告チラシを活用したゴミ袋」や「雑巾」について、その利用方策について、委員から提言がなされたり、行事等で車の運転の援助をもらうなど、ホームの生活全般にわたって委員の目配り・参加が行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などで情報交換を行いながら協力関係の構築に努めています	本年は、大震災の被災者の受け入れ等について、往来を含めて、密接かつ頻繁な相談や情報交換などが交わされている。隔月に発行している、「とよまね通信」を役場に持参する際に、小まめに連絡を取り合うなど、円滑な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為を研修し、身体拘束をしないケアに努めています	身体拘束をせずに行なうケア三原則を基本にししながら、車椅子やベッド柵など、毎年、テーマを決めて全職員の研修を行っている。その際には、職員それぞれに、「チェック表」を使って、普段のケアの点検・振り返り・共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢医者虐待防止法で定義する5つの虐待について再確認し、虐待予防・発見チェックシートを用いて研修し、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活支援員の毎月の訪問を通して日常生活自立支援事業を学んでいます。社会福祉士が後見業務を受任し実践に取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の要約版を用いて、一番ご家族が心配されている退所等について詳しく説明し理解や納得が得られるよう努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はアンケート等の意見収集の機会を設けていませんが、毎月の支払訪問時等にご家族から直接お話を伺う機会を設け運営に反映させるよう努めています	推進会議の際に意見をもらったり、毎月の訪問・経費支払いの際にも、話す機会を設けている。運営についての意見は出されていないが、職員の名前が分からないという意見が寄せられていることから、その対応を考えたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議時、一人一回は発言するようお願いし意見や要望を反映させるよう努めています	毎月の職員会議では職員一人一回の発言を募ったり、毎日の申し送りの際には、意見要望等が多く出されている。本年は、入浴脱衣室に利用者の安全・安心のために「手すり」設置の意見が出され、その速やかな設置・反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給与水準に出来るよう職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員による内部研修とともに、外部研修を受ける機会の確保に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沿岸北ブロックによる職員相互訪問を行いサービスの質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し見守ることに徹し、最初から行動を否定せず一度受け入れる姿勢で安心を確保する関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを一度でなく、数回に分けてお話を聞くことにより関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が必要としている支援を常に見極め柔軟なサービス対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を利用者と共に行い、生活場面を一緒に過ごすよう努めています努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り来所していただき家族の一員である利用者と交流を密に保つと共に、行事等の連絡を行い一緒に参加し共に支えていく関係作りに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら家への訪問や墓参り、近所にいた方の訪問など関係がとぎれないよう支援に努めています	大震災の被災地ということもあり、利用者の安否を気遣っていつもより遠くに住む人たち(友人知人・親戚など)の訪問が多くなされている。職員の日々の寄り添いを通して気長に馴染みの関係のヒントを得ながら、その支援に努めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グルーピング作りを行い、良い関係が保たれる利用者同士を近くの席に配置するなど、関わり合えるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のお話をする中で希望や意向を聞き出し日誌に記入し情報共有に努めています。	朝のラジオ体操、暖かい季節の畑仕事、寒い季節のチラシづくりやお豆の選別などバラエティーに富んだ暮らしを提供するよう心掛けており、そうした中で本人の表情や行動から、思いや希望を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用いて少しずつ、ご本人や家族、そして面会に来られる方々から情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌記録や職員情報より現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の課題分析で意見を出し合い、ご家族とは訪問時に希望・意向を聞き取り計画作成に反映できるよう努めています。	利用者主体の介護計画にするため、家族と必ず一度は話し合いを持ち、状況を相互確認しながら要望、意向を聴くとともに、各職員が利用者個々について把握している情報を持ち寄り、的確な計画作成や計画変更に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、日誌記録し全職員が情報を共有しながら示実践や介護計画の見直しに努めています。努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の観察の中から発見するニーズに対応した、柔軟な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊間根地区という地域の特性を生かしながら、できるだけ本人ができることを行いながら安全で豊かな暮らしの支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又はご家族の同意の元に主治医の所へ通院し、通院時にスタッフ同行するなど主治医と関係を密に保つよう努めています。	かかりつけ医の変更はなく、受診している。通院については、出来るかぎり家族の同行をお願いしているものの、職員の同行が多くなっている。本年は、特に大震災の関係もあって難しい状況になっていることから、柔軟に対応したいとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職がいないため、地域包括支援センターの看護職や地域の看護職に助言を求め適切な受診や看護をうけられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療相談室を通して情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることについて入居時に説明し了解を得ているが、終末期のあり方については現在は話し合いを行っていません。	現在の考え方は、重度化については、利用者が全介助の状態や経管栄養等医療行為が必要になるまでは、対応したいこと。終末期については、基本的に、対応できない・しないこととして家族等には説明している。退所後については、利用者家族と安心・最善の方法を一緒に考えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は受講しているが、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応の避難誘導訓練を毎月実施し、隣に避難先を確保するなど地域との協力体制に努めています。	夜間想定(一人深夜勤務)等の訓練について、消防署や地域住民の参加・協力を得て実施している。今後は、隣接する本社工場(運営者)の協力・連携を得るため、本社への非常通報装置の設置を検討している。近隣は3軒の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	空くに否定せず本人の思いや行動を受け止め見守りながら声掛けするとともに羞恥心の配慮に努めています。	手を出し過ぎない・かけすぎない、できるだけ制約をしない一人ひとりの「自立維持への支援」を基本にして、ケアに当たっている。名前は「さんづけ」、居室ドアの開閉や入室に際しては、本人の了解や承諾を得て行なうことを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ制約しない雰囲気作りをし、本人の思いや希望を実現できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のラジオ体操後、本日の予定をお話しご本人の希望にそった過ごし方を選択できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔時に鏡の前で衣類や整容をご本人の前で確認しながら行うよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域で採れた食材や昔ならではの作り方を教えて頂きながら一緒に準備し食べると共に片づけは当番制で全員が参加できるよう努めています。	家庭菜園の収穫物や近隣からのお裾分け、冷蔵庫にある食材を活用しながら、利用者の意見や季節の食材にも配慮し買い物をして、食事を作っている。利用者は、片づけやスプーン拭きなど出来ることで関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は一人一人記載しチェックし、栄養バランスを管理栄養士に見て頂き、状態の応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、ご本人の実施状況をも守りチェックするよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を元にパターンを把握し、間隔長い場合は排泄を促します。原則居室にポータブルトイレ置かず、排泄はトイレに誘導し自立に向けた支援に努めています。	毎日・毎回の排泄に目配りしながら、それぞれのパターンをしっかりと把握・記録・共有している。夜間を含め声がけをして、トイレでの排泄を徹底している。誘導については、丁寧かつ、さりげない声がけに、全職員が注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中体を動かす習慣と共に、昼食時に自家製ヨーグルトを摂取するよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表に添って声掛けをし入浴するかはご本人に決定して頂き、入浴不安を和らげるため、湯加減や入浴剤の使用、また体が冷えると話される方には夕食後の入浴など個々にそった支援に努めています。	清潔等に配慮して、隔日の入浴を基本としているが、毎日入浴や夕食後の入浴にも、臨機応変・柔軟に対応している。入浴に積極的でない方には、足浴や清拭で対応することもある。柚子湯などで、楽しみ・季節を意識した入浴にも心配りしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠傾向が強い方には声掛けし居室で時間を決めて休むなど気持ちよく眠れる支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時にスタッフが手渡しで服薬確認すると共に症状変化見られる時は、薬剤師に助言を受け確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から役割を見つけ出し業務分担をする共に気分転換できる支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの庭には自由に出かけられるよう支援し、地域行事・保育園催し物などに参加し外出する機会を設けるよう努めています。	地域行事等への参加に加えて、本年は大震災の被災地の実情視察ドライブも実施している。散歩やドライブを含めて、外出は、気分転換や適度な運動にもなり、自立した生活にもつながることから、天気や健康と相談、希望も聞きながら、今後とも出来るだけ多くの機会を設けたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のご希望に応じ、お預かりしているお金をお渡しし、使えるよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時や家族への不安のお話のある時は、家族の了承のもと、電話を入れると共に、贈り物や年始状に対してお礼の電話をするなど努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下に利用者の作品を展示すると共に、天窓から入って来る自然の光を取り入れながら明るい環境作りに努めています。また、季節の花や芳香剤を置いて目や臭いから居心地よく過ごせるよう努めています。	全体として木造で温かい感じの構造である。天窓で採光するホールは明るい。外庭の季節の草花は利用者の目を楽しませ、常に流れている音楽に合わせて歌を歌ったり、テレビを見たりして利用者は思い思いにくつろぎ、床暖房、パネルヒーターで冬期間も居心地良く暮らすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル配置を状況に応じて配置換えし、気の合った者同士で過ごせるようにすると共に、ソファで寛げるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが許す限り本人が希望する衣装ケースや仏壇を配置すると共に、毎月作成するカレンダー掲示し居心地よく過ごせるよう努めています。	時計やカレンダー、家族の写真など、それぞれに自宅生活の延長線の雰囲気が感じられるよう配置がされている。すっきりと清潔感があり、南面の窓から明るく暖かい日差しが差し込む、何とも居心地の良さが感じられる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がない作りで自由に移動できると共に、居室とトイレドアの色を変えて認識しやすく自立生活が送れるよう努めています。		